

賑わい創出に向けた 取組事例



緑地・オープンスペース活用事例

山下公園（横浜市）

- 海への眺望，バラ園，記念碑や歌碑など見どころの多い公園
- Park-PFI制度を活用し，公園内レストハウスにおいて飲食及び物販店舗等を運営しながら，周辺園地の整備及び管理運営を実施



緑地・オープンスペース活用事例

としまみどりの防災公園 愛称：IKE・SUNPARK（豊島区）

- 区内最大の公園であり憩いの場であるとともに、防災公園としての機能も有する
- KOTO-PORTという小型キャビン型の店舗に様々な飲食物を提供する店舗が出店する



緑地・オープンスペース活用事例

元町パークレット (横浜市)

- より快適にまち歩きを楽しめるよう、車道上駐車帯の一部を転用し、ベンチと植栽が一体となった滞留空間「元町パークレット」を、商店街の通り沿いに全3箇所設置



ベンチ

元町パークレット

緑地・オープンスペース活用事例

Marunouchi Street Park (千代田区)

- Marunouchi Street Parkは、丸の内仲通りの今後のあり方や屋外空間の活用方法の検証を目的に2019年にスタートした社会実験。
- 丸の内仲通りという道路空間の積極的な活用や滞留空間を創出し「ウォーカブルなまちづくり」に寄与する取り組み。



丸の内ストリートパーク



道路空間にベンチや店舗を設置



2024冬 (2024.11.14~12.25) の実施内容

出典：<https://marunouchi-streetpark.com/>

緑地・オープンスペース活用事例

TOKYO mizumachi (墨田区)

- 国内外の宿泊需要に対応するコミュニティ型ホテル、公園と川の環境と一体化した新業態のレストランや、スポーツと一緒にカフェが楽しめる開放的な施設



川沿いの遊歩道



飲食店、ペット用品店など



高架下に店舗を設置



隅田公園と隣接

緑地・オープンスペース活用事例

メリケンパーク (神戸市)

- 明治の開港と共に荷揚げ港として賑ったメリケン波止場を埋め立てて造られた公園
- 2017年に神戸開港150周年を記念して大幅リニューアルし、夜間のライトアップやスターバックス、フォトジェニックな撮影スポットを導入



緑地・オープンスペース活用事例

グラングリーン大阪（大阪市）

- 地区全体でおよそ8haのみどりを確保し、みどりと一体となった新産業創出、国際集客・交流、知的人材育成を図りイノベーションを創出。
- R6.9供用開始し、市の指定管理として一般社団法人うめきたMMOが運営を実施。



国際クルーズ船ターミナルの事例

那覇港クルーズターミナル（那覇市）

- 2014年4月から供用開始。那覇空港から車で約10分、中心市街地から徒歩約15～20分の距離に立地している。
- クルーズ船が寄港していなければ、イベント会場として2Fホールを使用することができる。

※コスタセレーナ寄港時



屋上展望デッキ



1階ロビー



2階入国審査ホール（寄港時以外）

出典：<https://nahaport.jp/sp/users/guide/>

国際クルーズ船ターミナルの事例

神戸ポートターミナル（神戸市）

- 東側には水深12メートル、西側には水深11メートルの岸壁を備え、両側同時に接岸が可能
- CIQ機能が完備され、2,500人収容の大ホールや約110台の車及び18台のバスを収容する駐車場なども設けられている
- 両岸壁ともボーディングブリッジが設置されておりバリアフリー対応となっている



国際クルーズ船ターミナルの事例

天保山旅客ターミナル（大阪市）

- 令和6年5月にリニューアルし供用開始。水深11m，最大22万トン級のクルーズ船の受入可能
- クルーズ船の利用がない時は，2階ホール・3階ホールをイベント会場として貸し出し
- 海遊館や天保山旅客マーケットプレイス等の商業施設と隣接し，最寄り駅から徒歩5分



国際クルーズ船ターミナルの事例

ハンマーヘッド (横浜市)

- 令和元年10月供用開始，日本初のホテルと商業施設が一体となった国際客船ターミナル
- CIQは常設ではなく，動かせる椅子・机・壁パーテーションで設営し，クルーズ船の利用がない時はイベントホールとして活用
- クルーズ船下船時は，屋根付き通路をとおりCIQホールへ移動

